

# 第5回全国邦楽合奏フェス in 川崎 空前の規模で開催！ ～洗足学園音楽大学4施設で～



▲ 第5回全国邦楽合奏フェスティバル in 川崎での合同曲「相模幻想」（川崎絵都夫作曲）の演奏。作曲者の講習を経ての発表となった。（写真：関沼正幸）

2018年8月31日（金）～9月2日（日）にかけて第5回全国邦楽合奏フェスティバルin川崎（（特定非営利活動法人）全国邦楽合奏協会主催、川崎市他後援）が、神奈川県川崎市高津区の洗足学園音楽大学構のロキャンパスで開催された。

メインイベントの全国邦楽合奏コンサート、邦楽ロックバンド「AKARA」など9のコンサート、14のワークショップ、和楽器体験、和楽器新素材展示、アジア民族楽器展示を含む37の展示ブース、2つのシンポジウム、

尺八筒音大音量コンテスト、邦楽ジャーナル表紙写真コンクール、和楽器をモチーフとしたオリジナル和菓子の販売など、ユニークな企画も実施された。

その中で、3日間で大小6つのコンサートの責任者を務めた釣谷真弓理事は「お引き受けしたときは、この様な空前絶後のイベントになるなんて思ってもいなかった。実行委員会ではアイデアが噴出し意見が飛び交い、今の邦楽界には見られない熱気があった」との感想を述べた。（関連記事2～3面）

## 主な記事

- 2～3面…第5回全国邦楽合奏フェスティバル in 川崎
- 4面…【地域貢献活動】和楽器体験教室
  - …阿南市コスモホール「邦楽への招待」
- 5面…第7回全奏協邦楽コンクール結果
- …第8回全奏協邦楽コンクール募集要項
- 6面…日本の伝統文化仕事図鑑 制作協力
  - …全奏協運営についての会議 ごあいさつ

## 2019年度 総会告知

開催日：2019年6月2日（日）  
時刻：13時30分（予定）  
場所：渋谷区役所 勤労福祉会館（第4洋室）  
〒150-0041 東京都渋谷区神南1丁目1-19-8  
住所電話：03-3462-2511  
(終了後交流会を予定しております)

## 第8回全奏協邦楽コンクール参加者募集 2019年8月18日（日）に開催

2019年8月18日（日）寝屋川市立地域交流センター「アルカスホール」で第8回全国邦楽合奏協会邦楽コンクールを開催する。今回、新たな試みも実施予定だ。（関連記事5面）



▲ 第7回全奏協邦楽コンクール（2018年8月）での記念写真（寝屋川市アルカスホール）

8月31日(金) シルバーマウンテン1Fで、2つのシンポジウムと「創邦21」「日本現代音楽協会」「作曲家グループ<邦楽2010>」「現代邦楽作曲家連盟」の作曲家4団体による「夏の終わり」と題するコンサートが開催された。

初日

## シンポジウム

### 討論時間の確保が課題!

今回のシンポジウムでは「作曲からみた邦楽の未来」と「国民的にみる邦楽の拠点の必要性」という二つのテーマについて、それぞれ4名、5名のパネリストから邦楽の魅力発進や邦楽発信の拠点づくりについてのご意見を披露していただいた。

事前に司会者とパネリストの間で打ち合わせをじっくり行った結果、時間どおりの進行ができた。ただ、二つ

のシンポジウムとも非常に重いテーマであったこと、そして時間が各60分、75分と短かったことから、それぞれのパネリストが意見を述べ合うにとどまったように感じた。司会者もまとめて苦労されたのではないか。いろいろな立場から意見を聞かれたことは良かったものの、もう少し時間を取ってロビーの意見と共に議論をかみ合わせ、全奏協としての将来のビジョンを立ち上げることも必要ではないかと感じた。

(シンポジウム総合司会  
英 崇夫(徳島))



▲シンポジウム(上)と作曲家4団体による「夏の終わり」コンサート(8月31日 洗足学園音楽大学シルバーマウンテン)

9月1日(土) 前田ホールでは、子どもたちによるロビーコンサート、高校生によるフレッシュコンサートが、アンサンブルシティーでは「相模幻想」の講習が開催され、展示、ワークショップも始まった。

2日目

## ワークショップ

### 丁寧な指導に感謝!

本年第5回全奏協フェスティバル演奏会合同曲に川崎絵都夫先生作曲の「相模幻想」が演奏されることになりました。

フェスティバルのワークショップでは作曲者による「相模幻想」講習会も開催され、楽章ごとのイメージ、爪の当て方、弾く場所、五線譜の読み取り方



▲洗足学園音楽大学 2018.09.01 作曲  
家川崎絵都夫氏による「相模幻想」講習

等広範囲なご指導を受けることが出来ました。

川崎先生のご指導は、優しい音楽

用語を使っての楽しいお話しで、相模幻想の持つ自然の雄大さやこいのぼりが空を泳ぐ情景を思い受け

べることが出来、曲への理解を深めました。

演奏会本番は全国からの演奏者総勢60名。当日の本番の指揮者は苦米地英一先生。舞台リハで指揮者からのご指導も受けました。

本番成功を納めることが出来たのも作曲者と指揮者の先生方がそれぞれのご指導を受けられたからだと思います。

新保真佐江(神奈川)

## 全奏協が邦楽愛好家の絆を繋ぐ架け橋



フェスに出演団体、コンサート班として参加。50年ほど邦楽に携わりましたが、これほど大規模なそして国際的な邦楽イベントの経験はなく、3日間に渡り邦楽の素晴らしさと日本伝統音楽の幅広い知識を得ることが出来ました。

コンサートに関しても、このフェスの為に作曲家に委嘱された作品の初演、プロ演奏家によるコンサート、小中学生によるジュニア

◀ 未来に羽ばたけ! 小中学生によるジュニアロビーコンサート  
聖徳大学附属取手聖徳女子中学校生徒による「流々(沢井比河流)」  
の演奏(9月1日 前田ホールロビー) 写真: 関沼正幸

コンサート、高校生によるフレッシュコンサート、小編成ユニットコンサート、合奏コンサートと各地から参加した演奏者が友好を深め邦楽の未来を語り合う素晴らしい3日間でした。

全奏協が邦楽愛好家の絆を繋ぐ架け橋として、そして邦楽の更なる発展に大きな役割を担っていることを認識したフェスティバルでした。佐藤法子(福岡)

## 参加してよかったですと思える展示・企画を模索

展示は企画の段階で大きな課題を抱えていました。そ

れは今までのフェスで出展関係者から 1) 展示フロアにお客様が



▲二日間とも展示会場は賑わっていた。(シルバーマウンテン)

2) その後のフェスでその改善策が講じられていると思えない 3) このような状況に出展者は少なからず不満を感じている、という声があがっていたことです。班員みんなで「展示者・お客様共に『参加してよかったですね』と感じてもらえるお祭にしたいね」「何でもやってみよう」との発想で企画に取り組みました。お客様が体験したり(展示)、聴いたり(ミニライブ)、参加したり(コンテスト)でき、運がよければ景品もゲットできる、そんな企画をやることでお客様の興味を引き、結果として展示フロアへの人の流れができる

のではないかと考えました。そして多くの方々から様々な提案や協力を得られたことです。この場を借りてお礼申し上げます。今回のフェスではある程度課題を改善できたと思っています。

三本博明(東京)

展示

## 全奏協通信

3日目

# 邦楽ロックバンド AKARA 見参



▲ 邦楽ロックバンド「AKARA」コンサート(9月2日  
アンサンブルシティ1F「e-café」) 写真:関沼正幸

最終日の3日目は午前11時から午後6時までこのフェス最大のイベント全国邦楽合奏コンサートが開催された。

トップは講習曲「相模幻想」だ。60人の参加者が前田ホールの舞台に登場する様は圧巻だ。

24番目の終曲では洗足学園音楽大学現代邦楽研究所による「新譜音悦多II～七段合奏今様～(松尾祐孝作曲)」が披露された。指揮も担当する松尾氏は洗足学園音大でのフェス開催実現に向け、大学との交渉等で精力的に尽力いた

だいたキーパーソンの一人だ。アンサンブルシティ1Fのe-caféでは、2015年デビューの邦楽ロックバンドAKARAが登場した。邦楽とは無縁と思われるAKARAファンも駆けつけ立ち見も含め200名近いファンで会場は溢れた。メンバーの一人で筝奏者のトミーこと谷富愛美氏が同大現代邦楽研究所の卒業生ということもありこの企画が実現した。(T)

## イベント

37を越える展示ブースでは工夫をこらした展示・体験・イベントが実施された。箏の糸締など伝統的な制作実演に加えセラミック箏爪、新素材の三味線皮、海外演奏旅行で便利な折りたたみ箏など新技術も目立った。



▲ 大音量コンテスト 2018.09.02  
洗足学園音楽大学シルバーマウンテン



▲ 邦楽ジャーナル表紙フォトコンテスト 琵琶を持っている男性は川崎市副市長(2018.09.02  
洗足学園音楽大学前田ホールロビー)

来場された方は色々なアイテムを持ち替えながら撮影を楽しんでいました。また、フェスティバルにあわせて開発した新商品「ほうがくのわがし」(和菓子:練り切り&どら焼等4種)はあっという間に完売。驚くほどの大盛況で

## お祭り感を求めて!

フェスの来場記念にと企画した邦楽ジャーナル表紙フォトブース。沢山の方にご来場いただきました。皆さんが持ち寄った琵琶、鼓そして変わり種の笛等やメガネといった小物は大人気でグループで

した。今回、演奏や展示以外にももっと「お祭り感」が出せれば…と思い企画させていただいたのですが、こういったフェスティバルの新しい部分を少しでも楽しんでいただければ幸いで

了林宏志(東京)

## 体験

### 多言語対応の外国人講師を配置

講師陣の自己紹介も英語で日本にいながら外国にきているよしました。今回は外国の方にもたくさん体験して開催することができます。このように、これまでの体験場所が正門から近いシルバーマウンテン2階で講師をそろえました。尺八の方も皆さん、英語が堪能で朝の顔合わせのジアの方々、またお子

さんや学生さんもたくさん来ました。尺八の音出しは難しかったようですが箏、三味線は皆さん楽しんでいただけたようです。次回もインターナショナルな体験コーナーが開催できればいいな、と思います。

中川雅玲(埼玉)



▲ 国際色豊かな和楽器体験指導者  
尺八体験受講風景

## 交流

### キッチンカーも登場

交流はもちろんイベント最後の交流会での情報交換は欠かせない。数百人規模を収容できる交流会場として夏季休業中の大学食堂をお借りすることができた。

また、食事を手に入れられるコンビニなどが会場から遠

い。しかし、この時期の買付弁当は食中毒を考えると避けることが賢明だ。そのため、第1回フェス(徳島県阿南市)でも好評だったキッチンカーをお願いし好評だった。多少の課題もあったものの食品事故を防ぐという所期の目的は達成できた。(T)



▲ イベントプログラム終了後の交流会での乾杯。大人数の参加者を収容する施設として、大学食堂を使用させていただいた。

## 多くの子どもに 和楽器の楽しさを！

その中で板野南小学校は、毎年4、5年生を対象として、和楽器体験授業を熱心に取り入れている。

今年度は、10月12日に4年生15名、5年生16名が箏の体験に参加した。最初に3名の講師紹介後、「ディズニーメドレー」を演奏した。子どもたちは目を輝かせ、間近で見る箏の姿や音色に引き込まれるように聴いていた。

続いて箏の歴史や特徴などをクイズ形式で説明した。「箏の素材は？」という質問に「すぎ！」、「さくら！」と身近な木の名前が並んだ



▲ 和楽器体験授業で箏演奏をする児童と指導する本会会員（2018年9月24日 徳島県立徳島聴覚支援学校）

が、桐は馴染みがないようで解答に苦戦していた。次の演奏体験では、一人一面準備した楽器で、4年生「ミッキーマウスマーチ」、5年生「小さな世界」を練習してもらった。どちらのクラスもチームワークが良く、男子生徒がリードして「せーのっ！」という大きなかけ声で合奏練習を行った。成果発表では講師も入り、先生方が驚かれるほどの素晴らしい演奏だった。

このように実際に生演奏の音色を肌で感じ、体験することができる学校は数多くない。また、ほとんどの学校は楽器がないため講師が持参することが多い。ただし、講師への謝金はほとんど出ないのが現状だ。

それでも、私達は子どもたちが目を輝かせて真剣に取り組む姿を力に、邦楽の未来を想い、少しでも多くの子どもたちが和楽器に親しみ日本文化を大切にしてもらいたいと、切に願いながら活動を続けている。

（本事業講師 平岡香織）



▲ 和楽器体験授業で箏の演奏を聴く児童  
(2019年1月30日 徳島市方上小学校)

全奏協の会員の邦楽普及活動としては記者が把握しているだけでも文化庁「文化芸術による子供の育成事業（芸術家の派遣）事業」、「伝統文化親子教室事業」、文部科学省「夢基金事業」、地方自治体単独予算の関係事業等が大分、高知、徳島、広島、兵庫、大阪、奈良、石川、神奈川、埼玉、千葉、東京他で実施されている。

2018年12月には文部科学省から「文化部活動に関する総合的なガイドライン」が公表され、外部文化団体との連携が求められ部活動指導員などの派遣の重要性が指摘されている。そのための運営体制への構築に邦楽界がどれだけコミットできるかも今後の課題と言えよう。（T）

## 和楽器 ほんざい 日本人だぞ！

### ～コスモホール邦楽への招待 VOL. 19 企画運営協力～

2019年3月9日（土）10日（日）徳島県阿南市情報文化センター「コスモホール」で表題の事業が実施された。総合プロデュースを本会の藤本玲理事長が担当し、田中隆文邦楽ジャーナル編集長、尺八の本間豊堂氏を特別ゲストに、本会理事が事業運営・演奏協力のため全奏協から派遣された。

同市開催の邦楽器写真展、同市産品の竹細工展とコラボ企画となった。演奏会では徳島県出身の三木稔の現代邦楽曲が地元演奏家も加わり披露され、途中、写真展の表彰式も組まれた。宇宙箏、正

倉院の尺八レプリカ、江戸時代の尺八など展示も充実した催しとなった。9日には邦楽の未来が多様な角度から議論されたシンポジウムも開かれ通常とは一味違った演奏会となってしまった。（T）



▲ 宇宙箏、3Dプリンターで作られた尺八としてちくわや簫の尺八に興味津々の来場者。



▲ ベットボトルキャップの尺八を紹介する田中隆文邦楽ジャーナル編集長。（写真はいずれも3月10日阿南市コスモホール）



▲ 徳島県出身の三木稔が作曲した「小組曲」のリハーサル。地元演奏者との初顔合わせとなった。

# 第7回全国邦楽合奏協会邦楽コンクール結果

2018年8月12日(日) 午前10時30分から寝屋川市立  
地域交流センターアルカスホールに【熟の部=60歳以上】  
（2組）、【達の部=59歳以下】（14組うち合奏3組）、【萌

（ほう）の部=小中学生】（14組うち合奏2組）の全30組  
の参加を得て開催した。【熟の部】【達の部】【萌の部】の  
最優秀金賞、【審査員奨励賞】は該当なしだった。



【達の部】

《全奏協賞》

上田麻里名さん（左） 村田知早さん  
「水華二題（吉崎克彦）」

## 【達の部】

《全奏協賞》”徳島県立城東高等学校邦楽部”のみなさん  
「水と火のまつり（長澤勝俊）」



### 【審査員】

石川憲弘（箏曲演奏家） 菊重精峰（箏曲演奏家） 星田一山（尺八演奏家）  
前田智子（作曲家） 吉岡紘子（箏曲演奏家） の各氏（五十音順）

### 【達の部】

《全奏協賞》

大八木幸恵さん  
「華になる  
(沢井忠夫)」

### 【萌の部】

《全奏協賞》

山本よしのさん  
「汽車ごっこ  
(宮城道雄)」

30組の出場者を迎えて開催しました第7回全奏協邦楽コンクール、例年にも増して情熱あふれる演奏が多く、審査員が頭を悩ます場面も多々見受けられました。また、低学年の小学生の参加が多かった

ことも今年の大きな特徴です。邦楽の衰退が叫ばれる中、次代の邦楽界を担う子どもたちの演奏に一筋の光明を感じたコンクールでした。

（コンクール統括 麻植武志）

## 第8回全奏協邦楽コンクール参加者募集

### 熟の部 対象 アドバイスコーナ新設

#### 【募集要項】

【開催日】  
平成31年（2019年）8月18日（日）

【開始時刻】  
10時30分開始予定

【会場】  
寝屋川市立地域交流センターアルカスホール（350席）入場無料

【開催部門】

- 熟の部：60歳以上
- 達の部：高校1年生～59歳以下  
(熟、達あわせて20組程度の募集)
- 萌（ほう）の部：小学生・中学生  
(10組程度の募集) 各部門とも、独奏4分以内、合奏6分以内

【応募条件】

- 年齢は4月1日現在
- 合奏で59歳以下が含まれる場合は「達の部」とする
- 使用楽器は尺八・箏・三弦・篠笛。

ただし地歌三弦以外の三味線で応募するときは、五線譜で作曲された現代曲のみ受付

- 合奏の場合グループ名を明記
- 助演を依頼しての合奏は受け付けません。その旨ご了承ください。
- 【応募方法】応募用紙に必要事項を記入のうえ下記へ郵送してください。募集予定数を超えた場合抽選をすることがあります。返送先住所を記した返信封筒（82円切手添付）同封

〒586-0018大阪府河内長野市千代田南町5-8 麻植方NPO法人全国邦楽合奏協会大阪連絡支部 宛

【応募期間】平成31年4月1日（月）～7月14日（金）消印有効

#### 【審査費用】

「熟の部・達の部」

■独奏12000円（高校生8000円）

■合奏一人あたり10000円（高校生6000円）

「萌（ほう）の部」

■独奏8000円

### 熟の部対象 アドバイスコーナーとは

コンクール形式での評価はせず、順位もつけません。コンクールの賞には興味はないけど自分の力は試してみたい、そして音楽の力を更に磨きたい、そのような邦楽愛好家の方々に向けて全奏協が企画する【熟の部対象アドバイスコーナー】が新設されました。

技術の向上と豊かな音楽性を目指す熟の部の皆さんにピッタリの企画です。奮ってご参加ください。アドバイスは後日協会より送付します。  
多くの方のご参加を！

#### ■合奏一人あたり6000円

小学校～大学までの学校単位のクラブ、サークルで応募の時は割引制度が適用。詳細は、下記HPより協会へご連絡ください。

#### 【審査員】

石川憲弘（箏曲演奏家） 菊重精峰（箏曲演奏家） 星田一山（尺八演奏家） 前田智子（作曲家） 吉岡紘子（箏曲演奏家）

詳しくは協会ホームページを御覧ください。

【連絡先】E-Mail: info@zensokyo.org

【申し込み用紙のダウンロード先】

<http://zensokyoosaka.upper.jp/>

## 日本の伝統文化仕事図鑑 芸能・芸術・武道・食ほか

### ”邦楽家”のページ作成を全奏協が協力

この春、児童書専門出版社「金の星社」から小・中学生向け図鑑「日本の伝統文化仕事図鑑」シリーズ『芸能・芸術・武道・食ほか』（ワン・ステップ/編）が発売された。

この図鑑の出版にあたり、全奏協は写真を提供した。校正等の過程で鈴谷真弓理事による加筆訂正を経ることで発刊に至った。



「邦樂家」とは、日本に古くから伝わり、伝統的に継承されてきた音楽で、三味線や箏、尺八、笛、瑟などの和楽器がもちろん演奏される音楽をさします。「邦樂家」は、その楽器を演奏する専門のことです。

邦樂家は、日々、技術をみがきながら、日本舞踊、文楽（人形芝居）、歌舞伎の舞台や演劇などで演奏活動をしています。

邦樂には大きくわけて、劇場で芝居などの伴奏に使われるものと、おもに祇園のなかや芸の伴奏として個人で楽しむものがあります。

祇園音楽では、「鼓頭」のような三枚鼓を伴奏にした声楽が活躍しています。ほかに

「日本の伝統文化仕事図鑑」（金の星社刊）の邦樂家のページの一部。制作に全奏協が協力した。

（画像転載許可済み）JANコード/ISBNコード：9784323061863

金の星社 HP の URL <https://www.kinnohoshi.co.jp/search/info.php?isbn=9784323061863>



三味線の2人で芝居の前をかたって進行します。舞台の影では、さまざまな打楽器や笛、三枚鼓を使って芝居にあわせて音楽を演じます。

（写真：K邦樂家企画委員会提供）

「歌舞伎役者、書家、力士、味噌職人、僧侶など、さまざまなジャンルで日本の伝統文化にたずさわる仕事を、豊富な写真で紹介する図鑑」（金の星社ホームページより）。

営業の方が主に学校や図書館等を対象に販売され書店にはあまり出回らないとのことだが、金の星社のホームページやネット書店などからも購入可能となる見込みだ。

購入に際しては同名の2019年2月に『工芸・建築・服飾ほか』が同社から発刊されている。お間違いないようご注意願いたい。定価4,212円（本体3,900円+税）。80ページ、対象年齢は小学校高学年から。

（T）

### 全奏協運営についての会議開催

2019年3月10日 徳島県阿南市で「和楽器＼(^o^)／（ほんざい）日本人だぞ」と題するコンサートの企画を全奏協の藤本玲理事長が担当



徳島県鳴門市エクシブ鳴門ザ・ロッジでの全奏協理事らによるミーティング

し全奏協が後援、本会理事が阿南に集合し協力した。

それに合わせて、2つの会議が開催され、その一つが、徳島県鳴門市のホテルで開催された。

議題は今後の全奏協の活動についてだ。

理事の役割、第6回邦楽合奏フェスティバル、海外公演、地区理事の役割や位置づけ、HPの活用法、HPとSNS

との役割の違いなどが熱く語られた。

後日発表される内容の議題もあるので、本記事での詳述は控えるが、地域や文化庁など関係機関との連携、地域貢献の重要性、その関連での海外との文化交流、今後のコンクールの課題とその改善事項等の議題が討議された。藤本玲理事長より「日本の伝統文化仕事図鑑」の邦楽分野で協力したことも報告された。

（T）

第5回全国邦楽合奏フェスティバル（フェス）は、8月31日から9月2日までの間、洗足学園音楽大学の施設をお借りして、「つなぐ！」をテーマに開催し、1200名強の方が参加いただきました。

音楽教育の場である洗足学園大学と現代邦楽研究所のご協力のもと、生徒達を含む団体と個人による4つのコンサート、著名作曲家

### 第5回全国邦楽合奏フェス 御礼とごあいさつ

およびプロ演奏家による3つのコンサートとライブ、楽器商を中心とする団体・企業・愛好家による30を超える展示、一流講師陣によるワークショップと体験、行政等パネリストを含むシンポジウム、そしてイベントを支えてくださるボラン

ティアの方々、まさに邦楽合奏のエコシステムの一堂に会した「つなぐ！」フェスとなりました。ご協力を頂いたすべての皆様に御礼申し上げます。

本誌第8号では、このイベントの参加者や実行委員の声の一部を掲載しました。参加

### 編集後記

第5回全国邦楽合奏フェスが邦楽界でも例を見ない規模で開催できた。洗足学園音大とのコラボあってのことだ。AKARA、体験演奏、展示などに訪れた客層からも、邦楽に興味を持つ若人、外国人が結構多数来場したように感じた。この様なイベントモデルが全奏協モデルとして確立されつつあるのかも知れない。

（T=広報担当 高橋哲也）



実行委員長  
立花茂生

された皆様にとって楽しかったフェスの保存資料として、そして今後開催されるフェスへの参加のご参考になれば幸いです。（立花茂生）

## 全奏協通信

NPO法人全国邦楽合奏協会（全奏協）

2019(平成31)年3月31日発行

<http://zensokyo.org>

〒770-8056

徳島県徳島市屋町43

全奏協本部事務所

TEL・FAX 088-655-7066

第8号